シラバス提出について

１．シラバスを提出する際には、任意の１授業について、各記入事項を色分けした『例示』を添付して提出すること。
※学校単位でシラバスの形式が統一されている場合は、例示は学校で１部の提出。学科や授業によってシラバスの様式が異なる場合は、１形式について１つずつ例示を作成し、添付して提出すること。

２．例示は用紙右上に『シラバス例示』と記入し、下記の必須事項についてマーカーを使って色分けを行うこと。

３．提出するシラバスは「実務経験を持つ担当教員の授業」のうち、省令で定める時間数分を抜粋して提出する。
下記の５要件に加え、実務教員のある教員による授業であることが具体的に示されている記載を備えていること。

【例】：講師○○は、△△に5年間携わった<u>実績を踏まえ</u>、◆◆の実務者の<u>観点から、☆☆</u>の方向性を講義する。（講師の説明を入れること。）

４．成績評価の方法・基準は、申請年度のシラバス等に記載された内容であること。評価基準を、客観的指標（ＧＰＡ等）で定めていること。（成績順位の下位4分の1が、判別できること。）

５．【必須記載事項と色分けについて】
各学校のシラバスの書式・形式に応じて、下記の記載必須事項の該当箇所及びキーワード部分に、カラーマーカーを使用して色分けし、明示すること。

黄色 ①．授業の方法（講義、演習、実験・実習実技等の別）
橙色 ②．授業の内容（授業科目の概要）
桃色 ③．年間授業の計画（授業の回数やスケジュール）を示す記載内容の書類の提出
緑色 ④．到達目標
青色 ⑤．成績評価の方法・基準（基準は授業科目で同一でも差支えない。）
赤色 ：　実務経験のある教員による授業であることを具体的に示す記述には、赤ペンなどで下線すること。

東京ジャーナリズム専門学校

シラバス例

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
ジャーナリスト養成専門課程	記者学科　昼間部（2年制）	2019年度	1年・前期
講義区分	**授業科目名**	**担当教員**	**単位・時間数**
専門基礎	報道と社会Ⅰ	度査　真和理	2単位　23時間

【授業の到達目標及びテーマ】

報道記者（新聞・テレビ）の業務、社会的責任について学び、世論や報道、ニュースにおける記者の役割について理解を深めることを通して、記者や報道、メディアリテラシーについて各生徒自身の意見を持つことができることを目標とする。

【講義概要】

私たちが普段接するニュースや記事は、どのような過程を経て作成し、世の中に発表されるのか。報道を担う記者の業務と報道を取り巻く業界、社会構造について概論を学びます。前半では、記者の具体的な業務について、後半ではメディアと社会について社会学的な観点から研鑽し、世論形成について議論を深めます。

回	授業計画及び学習の内容
1	記者の仕事は「文章を書くこと」ではない
2	【事件記者】 警察・司法担当記者の意義と責任
3	【政治記者】 政治・行政担当記者の意義と責任
4	海外特派員になるには
5	取材源の秘匿と署名記事の責任
6	取材を体験しよう（1） 基本的なニュース記事の書き方
7	取材を体験しよう（2） 記事に書くべきこと、書いてはいけないこと
8	～中間テストと実技試験～ （第7回までの授業に関する小テスト及び、記事作成の実技試験）
9	新聞、テレビ、雑誌、インターネット　それぞれの業界特性について
10	記者クラブの必要性とフリージャーナリストの存在意義
11	報道の大義と個人情報保護
12	新聞社と通信社、テレビ局とネットニュース
13	メディアリテラシー
14	『第四の権力』は果たして必要なのか
15	定期試験（全授業に関する試験）

【成績評価方法】

講義全体を100点満点として採点する。中間テスト・実技試験40点、定期試験40点、授業への参加・意欲20点から成績評価を行う。なお出席全体の2／3以下の場合は、成績評価の対象外となるので注意すること。

【授業の特徴・形式と教員紹介】

講義形式を基本とするが、記事作成の実技や取材に効果的な質問方法に関するグループディスカッションなど実用的な学習・演習の時間も適宜取り入れる。担当教員は元毎朝新聞記者（新潟支局、東京本社社会部）として勤務した経験があり、報道にする実務経験に基づいて記者養成に向けた授業を展開する。